トップ 東北ニュース 記事

☆ 福島のニュース

福島 社会 原発事故・放射線

WIIL

<除染土活用>はや風評売れぬ飼料 二本松の道路造成事業、 計画段階の被害に困惑

東京電力福島第1原発事故で発生した除染土を 福島県二本松市の道路造成に再利用する環境省の 実証事業で、予定地周辺の稲を使った家畜用発酵 飼料を手掛ける市内の生産組合が、取引先から購 入を拒まれていることが7日、分かった。事業の 計画段階から地域に風評被害が生じた格好だ。組 合は市と対応を協議する。



除染土を再利用して造成が計画されている市道 拡大写真

事業予定地は同市原セオ木 (はらせさいき) 地 区。飼料は市内の畜産農家5戸でつくる安達太良

飼料生産受託組合が生産主体となり、一部を外部に販売している。原料の稲は周辺を含む稲 作農家約35戸から購入している。

高野一弘組合長によると、昨年飼料を販売した県内の大規模畜産農家から5月上旬、「そ ういう餌は要らない」と連絡があった。理由について「除染土再利用事業の影響を不安視す る顧客から問い合わせがあった」といった趣旨の説明を受けたという。

関係者によると、組合は稲作農家との契約上、少なくとも今年収穫の飼料用稲を買い取る 必要がある。将来的に仕入れ先を事業予定地周辺以外にすることは、輸送費用や作業効率の 面から現実的でないという。

組合は昨年、生産した飼料の3分の1を外部に販売。約180万円の売り上げがあった。 今年は風評の広がり次第で、販売先が見つからない恐れがある。

高野組合長は「原発事故直後のような風評被害はやっと収まってきたのに、これでは同じ ことの繰り返しだ。原セオ木で実証事業をやる必要がどこにあるのか」と憤る。

環境省はこれまで「放射性物質濃度が高い土は除き、十分な厚さのアスファルトなどで覆 う。安全性は確保できている」との主張を繰り返している。

市除染推進課の担当者は取材に「事業主体はあくまでも環境省」と説明。組合の支援策と して、飼料ニーズのある畜産農家の情報提供などを検討する考えだ。

実証事業では市内から出た除染土約500立方メートルを市道の盛り土に使う方針。当初 は5月に測量調査に入る予定だったが、地元住民の反対などで調整が続いている。

[環境省の実証事業] 最大2200万立方メートルと推計される除染土の最終処分量を減ら すため、再生利用の手法を確立するのが狙い。2016年12月に南相馬市小高区で始ま り、空間放射線量の変化などを確認する試験盛り土を実施した。二本松市原セオ木地区と福 島県飯舘村長泥地区でも予定する。除染土の放射性物質濃度は1キロ当たり8000ベクレ ル以下を原則とし、用途や工事規模に応じて引き下げる。

関連ページ: 福島 社会 原発事故・放射線

2018年06月08日金曜日

河北新報社からのお知らせ

06/07 月命日の11日、河北新報震災アーカイブ収 容の震災関連記事を紙面掲載イメージのまま ご覧いただくことができます。

05/14 釣り情報サイト「釣り河北」へのリンクバ ナーを削除しました。運営会社がサービスを 終了させたためです。

05/01 河北新報印刷センターのご見学受付について

見学施設改修による受付休止期間が変更にな りました。

休止期間は11月1日~2019年1月15日です。 当初、休止期間としていた8、9月はご見学い ただけます (8月10~20日を除く) ご希望の方は受付係TEL022-211-1473ま で、ご連絡ください。



新糖情報

新着情報一覧

うたの泉(654)火も人も時間を抱くとわれはお もう 消ゆるまで抱く切なきものを

<入試のツボ>柔軟な対応力磨こう

うたの泉(653)傘にうつくしいかたつむりをつ けて きみと地球の朝を歩めり/雪舟えま

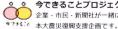
<小動物と暮らす>小鳥編[1]ひなから育て慣ら

特集 地震の記録/止まった刻 読者からの反響



河北就職ナビ2019

就活スタート!2019年3月卒業予定の学生 の皆さんへ 宮城・東北の優良企業からの



今できることプロジェクト 企業・市民・新聞社が一緒に取り組む東日



とうほく創生Genkiプロジェクト

仙台圏の生活情報満載!河北ウイークリーせんだい